

照葉樹林だより

綾の森を世界遺産にする会 会報

第7号

2007年4月20日

一會員の夢と取り組み

てるはの森の会 會員 守田 達朗

私は現在 70 歳で、綾との関係では、綾の照葉樹林プロジェクトの構成メンバーである「てるはの森の会」の會員で、ガイドボランティア活動に参加しています。これまでに、会の基本的な取り組みや課題などについては、すでに紹介されているので、私は一會員としての夢や、これまでの自分の取り組みについて紹介します。

綾の森と関わるずっと以前の 30 歳の時、家を新築して庭に最初に植えた樹木がツバキでした。それからツバキの花に魅せられ、せっせとツバキの蒐集を始め、10 年後には庭に立錐の余地のない状態になっていました。

当時勤務していた宮崎市役所の企画課で、市政 60 周年記念行事を担当しました。宮崎市椿山森林公園建設事業の内容を検討する際に、私の提案した椿山のツバキ公



園化が決定されました。さらに市長の意気込みが加わり、世界一のツバキ園をめざして 1984 年から事業がスタートしました。1999 年には国際ツバキ会議が宮崎市で開催され、2003 年には国際ツバキ協会から国際優秀ツバキ公園としての認証を受けました。世界で 8ヶ所目、日本で最初の認定でした。更に実質的な世界一のツバキ園を目指して、

ボランティア会を設立し、取り組みは続いています。私は定年退職後、ツバキボランティアとして毎月 1 回作業に従事しています。

ツバキに関わる中で、ツバキが照葉樹林の主標木であることを知りました。2003 年の照葉樹林シンポジウムに初めて参加して感銘を受け、その場で入会しました。

定年を間近に控えた時に読んだヨガの本で、インドでは古来から人生を 4 期に区切っていることを知りました。『学生期』、『家住期』、『林住期』、『遊

行期』でした。私は定年後の林住期を自然環境保護活動への取り組みを中心にしていこうと考え、椿山森林公園を世界一のツバキ公園へ育成すること、綾の森を世界遺産に指定してもらうこと、さらにそれを推進して宮崎平野を囲む「てるはの森回廊」を国の緑

の回廊に指定してもらうことに向けて取り組んでいくことにしています。

10 年先の『遊行期』には照葉樹林を逍遙遊行して過ごし、最後は、千の風になって、この大きな森を吹きわたっていたいものだど夢見ています。

(宮崎市在住)

照葉樹林の豊かさを支える植物 - ②寄生植物 -

綾の照葉樹林プロジェクト連携会議 委員 河野 耕三

寄生と着生

「照葉樹林だより」第5号では、照葉樹林の豊かさを支える植物として着生植物を紹介しました。今回は照葉樹林帯の中にあつて、照葉樹自然林や照葉樹二次林の中に見られる「植物に寄生して生活をしている植物」について紹介してみたいと思います。

着生植物の場合、照葉樹林を構成する木の樹幹上や枝上のある場所をハビタットとして利用(借用)しているだけでした。それに対して寄生植物はハビタットとして林内空間を利用するだけではなく、他の植物に寄生根と呼ばれる特殊化した根を寄生する植物の組織に進入させて結合し、水分や養分を吸収して生活しています。そのため寄生される植物(宿主)は生きている状態、しかも元気のよい状態の植物であることが必要です(活物寄生)。活物寄生する寄生植物は生活形によって大きく二つに分けられています。1つは、葉緑体を持たないため自分では養分形成が全くできず、水分や栄養の総てを宿主から吸収して生活する全(完全)寄生植物と呼ばれる仲間です。この仲間は葉を持たないため光合成植物でないことは一見して分かります。もう一つは、葉緑体を持ち光合成で自らも養分をつくることのできる半寄生植物と呼ばれる仲間です。半寄生植物の場合は、一般に器官としての葉の退化はあまり見られません。中には寄生植物とは気がつかないものもあるほどです。

照葉樹林内の寄生植物

ところで、照葉樹林の中に見られる寄生植物にはどのようなものがあるのでしょうか。宮崎県の例

全寄生植物 5種	
ヤッコソウ	<i>Mitrastemon yamamotoi</i>
ツチトリモチ	<i>Balanophora japonica</i>
ヤクシマツチトリモチ	<i>Balanophora yakushimensis</i>
キイレツチトリモチ	<i>Balanophora tobiracola</i>
キヨスミウツボ	<i>Phacellanthus tubiflorus</i>
半寄生植物 6種	
ヤドリギ	<i>Viscum album</i> ssp. <i>coloratum</i>
ヒノキバヤドリギ	<i>Korthalsella opuntia</i>
オオバヤドリギ	<i>Taxillus yadoriki</i>
マツグミ	<i>Taxillus kaempferi</i>
ママコナ	<i>Melampyrum roseum</i> var. <i>japonicum</i>
シコクママコナ	<i>Melampyrum laxum</i>

で調べてみました。照葉樹林内に生育する照葉樹や落葉樹に寄生しているものを合わせると5科7属11種となります(表)。(※:表中のヤクシマツチトリモチは、最近オオスミツチトリモチやユワンツチトリモチなどがまとめられたものです)また、ボロボロノキ科の仲間は一般に半寄生植物の仲間が多いと言われていますが、各種資料や自生種での確認ができていませんので、今回は寄生植物の仲間からは除いています。

照葉樹林内に見られる寄生植物は多くはありませんが、ヤッコソウ科をはじめ、ツチトリモチ科やヤドリギ科など特異な科の植物で占められています。

全寄生植物

全寄生植物は光合成をしないため、林床部の劣悪な光条件の中でも生育可能です。代表的なものはツチトリモチの仲間です。この仲間は寄生している植物(宿主)の根を抱え込み、地下にごつごつした硬い芋状の塊(塊茎)をつくります。ツチトリモチの名の由来は、この塊茎をつぶして水にさらしながら不純物を洗い流すと、小鳥を捕るときに使う”鳥もち”をつくることのできるからきています。全寄生植物5種は総て照葉樹の根に寄生しています。キヨスミウツボだけは照葉樹以外にも結構寄生しているのを見かけますが、宮崎県内では宿主の中心は照葉樹です。

全寄生植物5種類の分布の状況にはそれぞれ特徴があります。低地海岸線から内陸山地帯にかけて種ごとに分布の状況が異なります。キイレツチトリモチは最も海岸に近い場所に分布し、日南海岸以南の海岸風衝低木林や海に面した低山地域の尾根状地に見られ、殆どがトベラ科やバラ科のシャリンバイ等の根に寄生しています。スダジイやコジイの根に寄生しているヤッコソウは、海岸付近から宮崎平野内陸側周辺部の低山地移行帯付近まで点在的に見られます。(写真1)。キヨスミウツボはシイ林域からカシ林域下部の沢沿いや凹状地斜面のような、乾燥しない礫の混じった立地にやや希に見られます。県内で寄生している木はバリバリノキやホソバタブ、スダジイ等の照葉樹の他、イヌシデやノリウツギなどがあります。ツチトリモチはシイ林域上部からカシ林域にかけてみられます。寄生している木はクロキやクロバイなどのハイノキ科が中心ですが、周りにハイノキ科が見



写真1 ヤッコソウ

られないところでも見ることがあり、ハイノキ科以外の樹木にも寄生すると考えられます。最後のヤクシマツチトリモチの分布はカシ林帯が中心です。ツチトリモチよりも少し海拔高度が高いところに偏って生育しているようです。ヤクシマツチトリモチの生育地は海拔900m前後が上限のようで、それより高くなると殆ど見られません。照葉樹林帯の上限付近からブナ林にかけて見られるものにミヤマツチトリモチがありますが、今回のリストでは取り扱っていません。もう少しミヤマツチトリモチの生育環境に関する資料が集まり、明らかに照葉樹林内にも生育地がある事が分かった段階で判断したいと思います。

半寄生植物

半寄生植物は光合成をしますので、多くの場合葉の退化はあまりはっきりしません。光合成をするには適当な光条件を要求してきますので、鬱蒼と茂った照葉樹林内では生育できません。光条件の良い林冠部の枝先に寄生したり、崖地や痩せ尾根の林床まで光が届く環境下で他の植物の根に寄

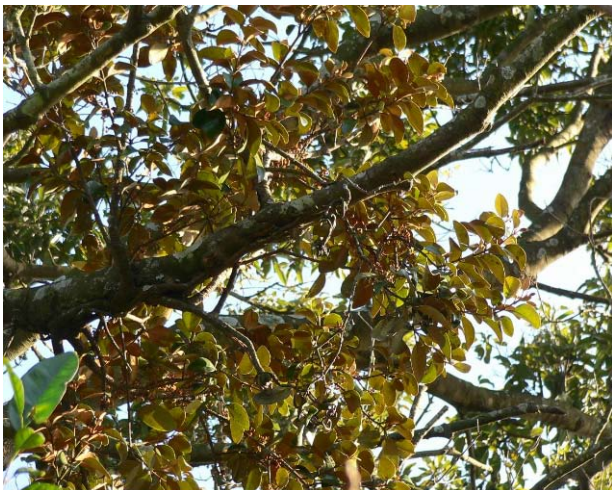


写真2 オオバヤドリギ

生したりしています。しかし、他の植物の根に寄生する地表生の植物の場合は、教えてもらうか、地下の根茎を掘って確かめない限り、それが寄生植物であるとはなかなか分かりません。

半寄生植物の代表はヤドリギです。枝先を借りて生活するため「宿り木(ヤドリギ)」の名があります。また、ヤドリギの仲間の果実は甘く、鳥が好んで食べます。しかし、果実には粘液質の部分があり、鳥の消化管を通っても尚粘りが残ります。鳥が梢に止まり糞をすれば、ヤドリギの種子は糞と共に梢に留まり、やがて発芽し成長します。そのような粘液は、集めてツチトリモチ同様小鳥を捕る「鳥もち」にも利用されてきました。いずれにしても、ヤドリギと鳥との関係は興味深いものがあります。鳥が休んだり食べ物を探したりする梢はヤドリギにとっても都合の良い生育環境です。鳥はヤドリギの実を食べ、ヤドリギは鳥に環境の良いところに種を運んでもらう関係にあるのです。

照葉樹林の林冠枝先に見られるヤドリギ科の中心はオオバヤドリギです(写真2)。オオバヤドリギはシイ類やカシ類を中心にいろいろな木に寄生する低木の植物です。若い枝や葉の裏側には、褐色の毛が密生しています。緑の林冠の中に褐色の葉の塊があるので遠くからでも確認できるくらいです。綾町の照葉大吊橋を渡ったところでも見ることができます。

ヒノキバヤドリギは矮性の木本で、ヤドリギ科の中では例外的に葉の器官が退化しています。その代わり緑色の茎が葉のように扁平になって光合成を行っています。崖地や溪流辺のヒサカキやヤブツバキ、ネズミモチ、シャリンバイ等に寄生しているのをよく見ることができます。ヤドリギはヤドリギ科の代表的植物ですが、照葉樹林帯の中では森林の周辺部に多く見られます。それはヤドリギの葉がヒノキバヤドリギほど極端ではないが退化していることと関係しているようです。より強い光を要求しているため、照葉樹林の周辺、特に落葉樹との混交林に生育の中心を置いているのです。カシなどに寄生している個体の大きさを見ると、落葉樹に寄生している個体と比較して明らかに小さいものです。

根に寄生する地表生の半寄生植物の代表はママコナの仲間です。照葉樹林内にはママコナとシコクママコナがあります。岩場や痩せ尾根状の低木林内によく見られます。

寄生植物は着生植物とは異なる生態的適応で進化しながら、照葉樹林との共存関係をつくっています。このような寄生植物の存在は、生態系としての照葉樹林の歴史や生物のたくましさを私たちに感じさせてくれます。(日本植生学会会員)

「てるはの森の会」事務局から

「綾の照葉樹林プロジェクト」の動き

■ 第5回連携会議開催 (2007年2月16日)

協定5者により年2回開催される「綾の照葉樹林プロジェクト連携会議」の第5回が開催されました。

初めに平成18年度の事業取組状況の報告が各機関より行なわれました。エリア内における各種調査事業、人工林から照葉樹林への復元事業、環境学習事業、てるは森の驛運営事業など、24事業が実施されました。続いて、平成19年度の事業方針について意見交換が行なわれました。継続して実施していくべき事業の提案の他、事業成果の共有や成果の市民への公開、間伐材の利用方法の検討、幅広い協力を得るための方法の検討などについて、今後の協議の必要性が話し合われました。

また、連携会議会則の開催日程に関する条項の変更について、協議が行なわれました。連携会議は、年2回、原則として2月と7月に開催することが定められています。しかし、事業の報告や事業計画の策定、年度途中での事業進捗状況の確認が、現行の日程では円滑に進められないため、6月と11月への開催変更が提案され、承認されました。

■ 第2回照葉樹林復元ボランティア事業開催 (2007年3月8日)

綾の照葉樹林プロジェクトの核となる「照葉樹林復元ボランティア事業」の第2回が開催されました。第1回は雨の中の作業でしたが、今回は打って変わって青空！作業ボランティア登録者を中心に、24名の参加者が伐採作業に取り組みました。



(手前:伐採地 奥:照葉樹林)

伐採地の林齢は24年生。それほど太い幹ではありませんが、ナタとノコギリでの作業はなかなか大変です。木が倒れ、光が差し込むと、「ワーッ！」と歓声があがりました。

今回の作業場所は照葉樹林と隣接しています。ここから種が運ばれ、長い時間をかけて照葉樹林へと復元していくのだと実感できました。

作業ボランティアへの登録は随時受け付けています。興味のある方は、事務局までお気軽にお問合せください。

♪お知らせ♪

- 平成19年度「森林の市」開催
林野庁主催の「森林の市」が、5/12(土)～5/13(日)にかけて、東京都日比谷公園で開催されます。森林に関わる様々な団体が、木工品や山菜などの展示販売、手づくり体験などを行ないます。「てるはの森の会」も出展予定ですので、周辺にお住まいの方は、ぜひ遊びにいらしてください！
- 「照葉樹林文化シンポジウム2007」開催
毎年楽しみにいただいている方も多い「照葉樹林文化シンポジウム」が5/26(土)～5/27(日)にかけて開催されます。今年は照葉樹林に関連した調査・研究の情報交換会「照葉樹林研究フォーラム」も同時開催の予定です。もちろん、森を体験するプログラムも準備しています。ご家族、お友達と一緒に、ぜひご参加ください！

会員を募集しています！

「てるはの森の会」では、綾の照葉樹林プロジェクトにご協力いただける会員を募集しています。

年会費	個人サポート会員	2000円
	家族サポート会員	3000円
	団体サポート会員	5000円
	法人サポート会員	10000円

会員になっていただくと、照葉樹林やプロジェクトに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年4回お届けします。プロジェクトが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は下記事務局までお気軽にお問合せください。

綾の森を世界遺産にする会 会報
第7号 2007年4月20日
発行：綾の森を世界遺産にする会
事務局：てるはの森の会
〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2丁目9-6 みやざき
NPOハウス403号
TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289
E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp
URL: <http://www.teruhanomori.com>

(表紙の写真「綾の森降雪(2005年12月)」 撮影 坂元守雄)